

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

| | |
|-------|-----------------|
| 施設番号 | 66-1046 |
| 施設名 | グリーンフィールド上野毛保育園 |
| 施設所在地 | 東京都世田谷区上野毛1-9-7 |
| 法人名 | 社会福祉法人ちとせ交友会 |

1. 活動のテーマ

<テーマ>

お米づくりを通して食の大切さを学び、食への意識を高める

<テーマの設定理由>

・米不足や価格の高騰からお米の話題になり、普段自分たちが食べているお米はどうやって作られているのか、興味を持ったため
・給食を残してしまうのはもったいないという意見もあり、お米や作物ができる過程を知ることで食への意識が変化すると考えたため

2. 活動スケジュール

・お米や野菜を育てるためには何が必要なのか子どもたちと話し合いを行い、自然（土・水・光・太陽）が必要だということを知る
・バケツ稲のセットを準備し、バケツや土、屋上のネットなど栽培環境を整える
・日々の世話や成長記録などをドキュメンテーションとして掲示する

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

《環境設定》

・屋上に鳥よけのネットを組み立て、その中でバケツ稲を育てる、ミストの設置
・室内の環境整備（観察、描画による表現ができるコーナーの設置 椅子・マット・ワゴンの設置）

《準備物》

・バケツ稲作りセット、ブルーシート、バケツ、土、容器、ネット、支柱、ジョウロ、すり鉢、ボール、めん棒

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・ 6月 土の準備、芽出し、種まき、苗の移し替え
- ・ 7月～成長観察、中干し
- ・ 10月 稲刈り
- ・ 11月 お米にする（脱穀・粃摺り）
- ・ 12月 稲わらでしめ縄作り
- ・ 1月 お米せんべい作り

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・土の準備（黒土6・赤玉土3・鹿沼土1の割合）を行い、それぞれ種類の違う土を混ぜ合わせ乾かす作業を行うと、思っていた以上に土が重たく「混ぜるのが大変！」と発言する姿があった。

作物を育てるためには土が必要になるが、こんなに大変な思いをしながら農家の人たちが作っていることを知る機会となった。

芽出しを始めてからお米になるまでの約半年、毎日のように観察を行ったことで成長の変化に気付き、葉が増えたり伸びたり、中には友だちと比べて葉や茎の成長が遅れていると「大丈夫かな？」「なんで小さいままなのかな？」と心配をする様子もあった。

無事に全員の茎に穂ができ膨らんでいる部分を一緒に観察していると、日に日に穂の色が変わり子どもたちも嬉しそうな表情を見せていた。穂の中に入っている実（お米）を1つ出してみると、見慣れた白い色ではなく茶色だったため、「なんで？」「白くないね」と疑問を持つ子どもの姿もあり、白米になる前は玄米だということを説明した。

稲刈りが終わってから子どもたちに感想を聞くと、「毎日水をあげたり育てるのが大変だった」「思っていたよりも大変だった」「（農家さんは）あんなに大変なことをしてるんだなぁと思った」など子どもたち自身でも気づきがあった様子だった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

・バケツ稲は初めての挑戦で不安もあったが、子どもたちも一生懸命お世話をしながら育てたことで収穫まで行うことができた。残念ながら実がなっていないものも多く、結果としては失敗してしまったが、食べ物を育てることの大変さなどに気付いたり、給食を残したりすることはもったいない、農家さんに感謝の気持ちを持って食べよう、ということ子どもたち自身で気付き、実際に経験したことでそのありがたさがわかる結果となった。

・収穫できたことで、白米や玄米の色の違いも見ることができ、普段食べているお米はどうやって白くなっているのか疑問を持ち、知ろうとする姿に繋がった。

・乾燥させて取っておいた藁を使ってお正月のしめ縄を作ったりと、一つの活動を通して様々なものが作れることを子どもたちにも知らせることができた。そのためには、環境設定など事前準備が必要なこともたくさんあり、作物を育てるためには何が必要なのか、どんな環境が適しているのかを子どもたち自身が考え、知れる良い機会となった。